



日高ロータリークラブ WEEKLY

2022-2023 R.1テーマ
イマジン ローター

THE ROTARY CLUB OF HIDAKA

例会日	毎週火曜日	時間	第1・3週 18:00~19:00	第2・4週 12:30~13:30
例会会場	日高市商工会	住所	〒350-1206 日高市南平沢 1083 日高市商工会館内	
事務所	同上	TEL. FAX	042 (985) 3355	
会長	鈴木敏藏	幹事	長谷川 悟	会報委員長 犬竹 一 浩

第1812回例会 2022年7月12日(火) 通常例会

第1813回例会 2022年7月26日(火) 中止

2022年8月2日発行 第1632号

本日のお客様

小宮俊光 様(寄居 RC)

方 婷婷 様(米山奨学生 日高 RC 所属 駿河台大学在学)

会長の時間 鈴木敏藏会長

ここ数年、新型コロナウイルスの出現により、私たちの生活は一変致しました。ロータリー活動もそうですが、社会、企業、生活に於いて、実に多方面にわたり様々な活動を断念して参りました。しかし、近年新型コロナウイルスの発症と重症化を防ぐ切り札として期待されるワクチンが開発されました。本日は、その1つである『mRNA ワクチン』に欠かせない技術を開発したことで知られ、世界的に注目される科学者カタリン・カリコ博士のお話をさせていただきます。

～『世界の恩人』と呼ばれるまで…～

博士は1955年、ハンガリーで生まれました。首都ブダペストから東におよそ150キロ離れた地方都市で育ち、親は精肉店を営んでいました。大学で生化学の博士号を取得したあと、地元の研究機関で研究員として働きました。しかし、研究資金が打ち切られたことから1985年、夫と娘の3人で米国に渡ることを決意。研究論文に関心を持った米国の大学から招聘されたのでした。当時のハンガリーは社会主義体制で、外国の通貨を自由に持ち出すことができません。博士は苦心しながらも何とか現金を調達し、それをビニール袋に入れ、2歳の娘が持っていたクマのぬいぐるみ(テディベア)の背中を切って忍ばせ出国したそうです。見つかったら一巻の終わりです。アメリカに到着するまで、娘とテディベアから目を離せなかったそうです。米国では、ペンシルベニア州のテンプル大学やペンシルベニア大学で研究員や助教として働き、『mRNA』などの研究に没頭。しかし、研究成果はなかなか評価されなかったそうです。助成金の申請を企業から断られたり、所属していた大学の役職が降格になったりもしました。そうした中、たまたまHIVのワクチン開発の研究をしていたドリュー・ワイスマン教授と知り合い、2005年、今回のワクチン開発の道をひらく研究成果を共同で発表することになるのです。しかしこの論文は当時は注目されず、関連する特許を大学が企業に売却してしまうのです。多くの研究者がその可能性に気付かない中で、独の新興企業ビオンテック社がこの研究成果に注目。同社に招かれたカリコ博士は2013年に副社長、19年からは上級副社長になりました。新型コロナ発生後、同社はいち早く『mRNA』ワクチンを開発。ファイザー社と組み、大量製造が可能となったのです。遺伝物質『mRNA』は、体内に入れるとすぐに分解されるほか、炎症反応を引き起こしてしまうため、長年、薬などの材料として使うのは難しいと考えられていました。しかし、カリコ博士らはmRNAを構成する物質の1つ『ウリジン』を『シュードウリジン』に置き換えると炎症反応が抑えられることを発見。この技術を用いて2020年、新型コロナウイルスのワクチンが開発されました。現在、日本で接種が始まっているファイザーとビオンテックが開発したワクチンとモデルナのワクチンは2つともこの技術を使っていて、欧米の研究者などからは、実用化の鍵を握るこの研究成果はノーベル賞に値するという声もあがっています。カリコ博士は、単独インタビューの中で「物事が期待通りに進まない時でも周囲の声に振り回されず、自分ができることに集中してきた。私を『ヒーローだ』という人もいるが、本当のヒーローは私ではなく、医療従事者や清掃作業にあたる人たちなど感染のおそれがある最前線で働く人たちだ」と述べました。カリコ博士と、共同研究者のワイスマン教授は今ではノーベル医学・生理学賞の本命候補となっている」と伝えていきます。近い未来、このお二人に輝かしい賞が贈呈されることを願っております。





幹事報告 長谷川 悟幹事

地区事務所より

- ・米山記念奨学委員会研修旅行案内
- 8月28日(日) さきたま古墳公園

クラブ協議会

各常任委員会委員長 就任挨拶



小坂雅彦クラブ管理・運営委員長

「クラブの発展に力を注ぐ」

今後の5年をどのようにしていくか、そして新会員をどのように育てるかを重点として考えたいです。各委員の方々との話し合いを重ね、コロナ禍で出来ていなかった座談会も開催したいです。



古本良子会員増強・退会防止委員長

「クラブのより良い環境を維持しながら」

会長の掲げる、純増2名の目標を達成したいです。会員同士情報交換をしながら、慎重に丁寧なお誘いをしていきたいと考えております。会員皆様の御協力をお願い致します。



清水義峰職業奉仕委員長

「社会のためにお役に立ちたい」

職業倫理を全うし、社会に貢献することを目標としたいです。その為に『優良職業人表彰の実施』『情報交換座談会の開催』『事業所見学の実施』を念頭におき、活動して行きたいです。



武藤和雄国際奉仕委員長

「寄付金の理解を深める活動」

セミナーに積極的に参加し、会員の皆様へ情報を提供することが重要と考えております。皆様より頂いています大事な寄付へ対する理解を深めていただけるアナウンスをして行きたいです。



町田秀雄青少年奉仕委員長 代読 清水佳代子会員

「未来を担う若者のために」

当クラブにおいて青少年奉仕は奉仕活動の大きな柱になっています。各委員会等と連携しながら助成事業を中心に、青少年健全育成諸団体を応援すべく奉仕活動を実施します。

出席報告	7月12日	会員数	出席数	出席免除	欠席数	出席率	6/21修正率
	昼間	18	13	2	5	68.7%	70.6%

ニコニコボックス報告

会員 13名 合計金額 16,000円 累計金額 35,000円

第1813回例会

7月26日(火)、夜間移動例会(於：あさひ)の予定でしたが、コロナウィルス感染拡大防止の観点から、中止とさせて頂きました。